

## 第60回全国スポーツ推進委員研究協議会

- 1 期 日 令和元年11月14日(木)～15日(金)
- 2 会 場 1日目<開会式、表彰式、講演、シンポジウム>  
・津市産業・スポーツセンター サオリーナ  
2日目<分科会>  
・【第1分科会】三重県総合文化センター 大ホール  
・【第2分科会】三重県総合文化センター 中ホール  
・【第3分科会】津市産業・スポーツセンター サオリーナ メインアリーナ  
・【第4分科会】津リージョンプラザ お城ホール
- 3 主 催 スポーツ庁、公益社団法人全国スポーツ推進委員連合、  
三重県スポーツ推進委員協議会、三重県、津市
- 4 主 管 第60回全国スポーツ推進委員研究協議会三重県実行委員会
- 5 大会テーマ「スポーツ・イン・ライフを目指して」～とこわか(常若)な社会の実現に向けて～

### 6 内容

【1日目】11月14日(木)

○歓迎アトラクション(皇學館大学雅楽部) 12:00～

○開会式 12:30～13:00

- |             |                                  |                |
|-------------|----------------------------------|----------------|
| (1) 開会の言葉   | 三重県実行委員会委員長                      | 馬場 宏           |
| (2) 挨拶      | スポーツ庁審議官<br>公益社団法人全国スポーツ推進委員連合会長 | 藤江 陽子<br>齊藤斗志二 |
| (3) 歓迎のことば  | 三重県知事<br>津市長                     | 鈴木 英敬<br>前葉 泰幸 |
| (4) 登壇者紹介   |                                  |                |
| (5) 次期開催地挨拶 | 栃木県スポーツ推進委員協議会会長                 | 柳田 利夫          |

○表彰式 13:00～13:40 (富山県受賞者16名・1団体、感謝状2名)

- |                           |                |            |
|---------------------------|----------------|------------|
| (1) 文部科学大臣表彰              | 浄土 節子(黒部市)     | 波 れい子(射水市) |
| (2) 全国スポーツ推進委員連合表彰        |                |            |
| ・優良団体表彰                   | 氷見市スポーツ推進委員協議会 |            |
| ・スポーツ推進委員功労者表彰            | 橋本美津枝(富山市)     | 宮前ヒフミ(氷見市) |
|                           | 酒井 妙子(上市町)     | 中野 悦子(入善町) |
| ・30年勤続スポーツ推進委員表彰          | 飯作 幹子(入善町)     | 南 和江(砺波市)  |
|                           | 南 弘(氷見市)       | 西山 茂也(氷見市) |
|                           | 近藤 保之(射水市)     | 吉田 悦子(富山市) |
|                           | 表 美智子(富山市)     | 池内 栄二(富山市) |
|                           | 坪田 良子(富山市)     | 川崎 清江(滑川市) |
| (3) 全国スポーツ推進委員連合賛助会員感謝状贈呈 | 飯作 幹子(入善町)     | 吉田 和人(射水市) |

○講演 13:40～15:00

講師 瀬古 利彦 横浜DeNAランニングクラブ エグゼクティブアドバイザー  
テーマ 「心で走る」

日本長距離界、マラソンプームを牽引してきた地元三重県出身の瀬古氏が、「心で走る」をテーマに、自身の競技者、指導者としての経験をもとに、大変分かりやすくユーモアたっぷりに講演され

た。冒頭では、福岡国際でイカンガー選手をラスト 100m で抜き去った映像が流れ、大きな拍手が沸いた。

瀬古氏は競技者として、高校時代にインターハイで 800m と 1500m で 2 冠を達成。カリフォルニアでの浪人生活を経験した後、早稲田大学に入学。故中村清監督のもと、早稲田大学のエースとして箱根駅伝で活躍、国内外のマラソンに出場し、15 戦 10 勝と圧倒的な強さを誇った。しかし、オリンピックでは、毎回優勝候補と期待されながらも、モスクワ大会はボイコット、ロサンゼルス大会 14 位、ソウル大会 9 位と振るわなかった。

中村監督との数々のエピソードでは、監督を信じ、愚直に鍛錬してきたことが結果につながったと振り返っておられた。そして、当時ライバル関係であった宗兄弟と戦うための練習や戦略、「絶対勝つ」という強い気持ちをもって望むことの大切さを力説されるとともに、ライバルが存在したからこそ世界で戦える自分に高まることができたと感謝の気持ちを語られた。

指導者としては、泥臭い練習をすることを助言したことが、数々の結果に結びついていることを紹介された。そして現在、日本陸連の強化委員会マラソン強化戦略プロジェクトリーダーとしての立場から東京オリンピック選考レース（MGC）やオリンピックマラソン札幌開催についても触れられた。最後は、友人であるサッカーの元日本代表監督の岡田氏の指導者としての心構えで講演を締めくくった。

#### ○シンポジウム 15:20～16:40

テーマ 「新たな時代のスポーツ文化の確立に向けて」

コーディネーター	龍谷大学経営学部	教授	松永 敬子
シンポジスト	帝京大学教育学部	教授	浪越 一喜
シンポジスト	筑波大学体育系	准教授	大藏 倫博
シンポジスト	日本福祉大学スポーツ科学部	助教	兒玉 友
シンポジスト	大阪教育大学附属高等学校平野校舎	教諭	松田 雅彦

スポーツを取り巻く環境は、新たな局面を迎えている。

2017 年にスポーツ庁が策定した「第 2 期スポーツ基本計画」では、「スポーツの価値」を向上させ、その具現化により社会の課題解決に貢献することを新しい視点として取り入れている。そして来年はいよいよ東京 2020 オリンピック・パラリンピックが開催される。

新たな時代のスポーツ文化の確立に向けて、浪越氏からはスポーツを通じた地域活性化、大藏氏からは、健康寿命の延伸に向けた取組、兒玉氏からは、障害の有無に関わらず楽しめるスポーツの振興、松田氏からは、子供・若者のスポーツ活動の推進について、翌日の分科会も見据えてそれぞれの立場から意見発表・意見交換を行った。



#### ○富山県表彰伝達式・情報交換会 18:30～20:30

会場：津センターパレス ホール

参加者：94名



【2日目】11月15日（金）

○分科会 9：30～11：30（第1～4分科会）

【第1分科会】 三重県総合文化センター 大ホール

テーマ：「スポーツを通じた地域活性化」

～地域の特性を活かした取組による活力ある地域社会の実現を目指して～

コーディネーター：帝京大学教育学部	教授	浪越 一喜
発表者：大阪府・NPO 法人長野総合スポーツクラブ	理事長	杉岡 亜土
静岡県・NPO 法人掛川市体育協会	スポーツプロモーション課長	小池 正浩
三重県・一般社団法人志摩スポーツコミッション	事務局長	大山 純輝

大阪府の「長野総合スポーツクラブ」は、2009年にNPO法人格を取得、現在17種目30教室583名の活動をしている。市や外部団体の受託事業は雇用を生み出し、人工芝サッカー場の活用はスポーツ交流人口で成果を上げた。静岡県掛川市では、市体育協会が「掛川総合スポーツクラブ」と「掛川体協ツーリスト」を実践している。年間取扱収入は9,200万円にも上るため受益者負担が浸透し、ツーリストでは外貨獲得を目的に合宿の手配や大会の誘致を中心に事業を展開している。三重県志摩「スポーツコミッション」は、トライアスロン大会で日本の人気度No.1の実績を持ち、経済波及効果は約3,200万円以上と推測されている。しかし、いずれの報告からも感じ取られたのはスポーツ推進委員との関わりが希薄なことである。関わりが助言程度であったり、全くなかったりすることもあり、行政やNPOへの働きかけに今後の課題を感じた。



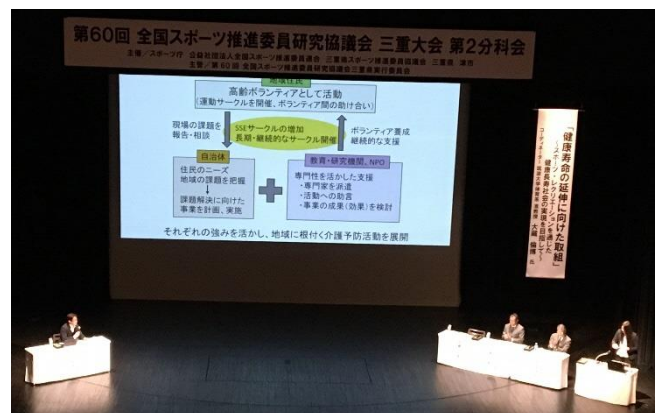
【第2分科会】 三重県総合文化センター 中ホール

テーマ：「健康寿命の延伸に向けた取組」

～スポーツ・レクリエーションを通じた健康長寿社会の実現を目指して～

コーディネーター：筑波大学体育系	准教授	大藏 倫博
発表者：高知大学地域協働学部	助教	佐藤 文音
三重県・一般社団法人元気クラブいなべ	事務局長	的場 弘毅
公益財団法人日本レクリエーション協会	常務理事	河原塚達樹

茨城県笠間市では、高齢者の転倒予防や下肢機能を向上させる「スクエアステップ・エクササイズ」をサークル活動で広めている。講習会や資格認定を積極的に行い、サークルに関わる全ての業務を高年齢ボランティアで運営できる体制を整え、サークル数や参加者の増加につなげている。三重県の社団法人「元気クラブいなべ」は、生活の中に運動を積極的に取り入れる「元気づくり体験」プログラムを、様々な参加の仕方（通所型、出前型、自主型）で展開し、地域の活性化や医療費の削減につなげている。日本スポーツレクリエーション協会は、高齢者が地区集会所や自宅など比較的狭い場所で実施できる「スポレクプログラム」を開発した。プログラムの効果は検証されており、各実証地区でもプログラムを継続するグループが誕生している。



ディスカッションでは、高年齢ボランティアの「運動が地域に伝染」し「健康も伝染」することによる「サクセスフルエイジング」について活発な意見が交わされた。

【第3分科会】 津市産業・スポーツセンター サオリーナ メインアリーナ

テーマ：「障害の有無に関わらず楽しめるスポーツの振興」

～スポーツを通じた共生社会の実現を目指して～

コーディネーター：日本福祉大学スポーツ科学部

助教

兒玉 友

発表者：千葉県・NPO 法人スマイルクラブ

理事長

大浜あつ子

三重県・四日市市スポーツ推進委員協議会

推進委員

野坂 賢司

長野県障がい者福祉センター

指導員

矢崎 萌斗

NPO 法人スマイルクラブからは、発達障がい児を対象とした運動指導教室について、四日市市スポーツ推進委員協議会からは、協議会によるボッチャを通じた障がい者スポーツへの取組について、長野県障がい者スポーツセンターからは、障がい者がスポーツに触れる機会や日常的に取り組むための環境づくりについての発表あり、障がい者スポーツの魅力や大切さに大いに気付くことができた。

障害者スポーツを実践することで、健常者と障がい者が互いに寄り添うことができることから、我々スポーツ推進委員が積極的に障害者スポーツを学び、地域において健常者と障害者が一緒にスポーツを通して交流できる場を模索し推進していくことが、これからの共生社会を実現する上で大変重要であると感じた。



【第4分科会】 津リージョンプラザ お城ホール

テーマ：「子供・若者のスポーツ活動の推進」

～スポーツ機会の充実による運動習慣の確立を目指して～

コーディネーター：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

教諭

松田 雅彦

発表者：公益財団法人ライフスポーツ財団

事務局次長

阪上 真紀

愛知県・認定 NPO 法人朝日丘スポーツクラブ

事務局長

三田 博司

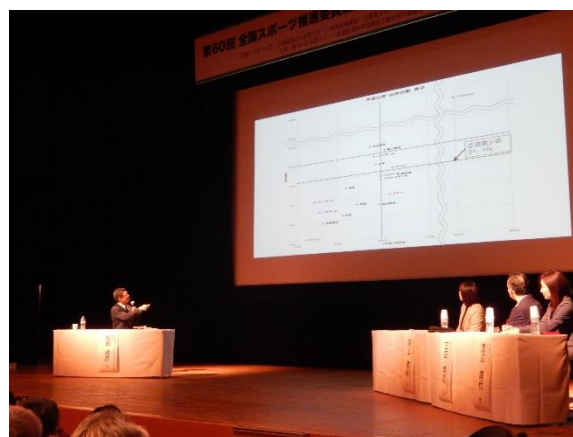
岐阜県・一般社団法人スポーツリンク白川

クラブマネージャー

渡辺 靖代

公益財団法人ライフスポーツ財団からは、助成による幼少児期からの事業について、認定 NPO 法人朝日丘スポーツクラブからは、子どもの体力向上への取組について、一般社団法人スポーツリンク白川からは、総合型クラブ、体育協会、スポーツ少年団が一体となっていて行っている活動について発表があり、若者の運動習慣の確立について考えた。

子どもや若者の充実したスポーツ活動が展開されるためには、様々な機関との連携・協力が必要不可欠であり、見通しをもった取組が大切であると感じた。



※研究協議会には全国から約 3, 700 名、富山県からはスポーツ推進委員及び市町行政担当者あわせて 99 名の参加があった。